

| | | | |
|---------------|---|-------------|-------------------|
| 授業科目名 | レクリエーション活動 | 担当教員名 | 新山 悦子 |
| 必修/選択 | 必修 | 開講学年・学期 | 2年 前期 (年間開講数 2講座) |
| 科目区分 | その他の科目 | 単位数 | 2単位 |
| 施行規則に定める科目区分等 | | 授業方法/担当形態 | 演習 / 単独 |
| | | 特記事項 | |
| 授業の到達目標 | <p>いろいろな身近な物を利用したあそびを知る。いろいろなあそびをマスターする。ナワとびの基本をマスターする。鬼あそびをスムーズに指導する。</p> <p>(1)利用者及び社会福祉事業従事者の保健の意義について理解する。</p> <p>(2)レクリエーション活動の社会的意義を理解する。</p> <p>(3)体育及びレクリエーション活動の基本的原則について理解する。</p> <p>(4)体育指導及びレクリエーション活動援助を実技を通じて計画作成能力・実技能力を習得向上させる。</p> | | |
| 授業の概要 | レクリエーションの意味と必要性を認識し、いろいろなレクリエーション(あそび)を体験し、認識と技術・指導のポイントを習得する。コーディネーション能力の向上・身体を動かす楽しさを実践し、不安愁訴を軽減し、運動不足の解消に努め、仲間づくり、体力づくりに努める。鬼あそびを考察し相互指導する。 | | |
| テキスト | 使用しない | | |
| 参考書・参考資料等 | 「楽しいアイスブレーキングゲーム集」三浦一朗著(日本レクリエーション協会)、「楽しみながら運動能力が身につく!幼児のためのコーディネーション運動」東根明久著(ナツメ社) | | |
| 成績評価の方法 | ○参加意欲…20% ○実技発表・試験…60% ○授業態度…10% ○指導案…10% | | |
| 授業計画 | 授業の内容 | 到達目標番号 | |
| 第1回 | ・授業内容、諸注意の伝達 ・レクリエーションの意味と必要性について ・ミニレクリエーション実施 | (1),(2),(3) | |
| 第2回 | * 手具を使ったレクリエーション① ボールを使ったレクリエーション | (3),(4) | |
| 第3回 | * 手具を使ったレクリエーション② フープを使ったレクリエーション | (3),(4) | |
| 第4回 | * 手具を使ったレクリエーション③ ナワを使ったレクリエーション | (3),(4) | |
| 第5回 | ※ 1 回目テスト (ナワとびの基本) | (3),(4) | |
| 第6回 | * 身近な物を使ったレクリエーション① 新聞紙を使ったレクリエーション | (3),(4) | |
| 第7回 | * 身近な物を使ったレクリエーション② イスを使ったレクリエーション | (3),(4) | |
| 第8回 | * 身近な物を使ったレクリエーション③ タオル、箸などを使ったレクリエーション | (3),(4) | |
| 第9回 | * 身近な物を使ったレクリエーション④ 昔あそび(けん玉、こま、お手玉等) | (3),(4) | |
| 第10回 | * 体を使ったレクリエーション① 昔うたあそび (かごめかごめ、花いちもんめ、通りやんせ、あんたがたどこさ など) | (3),(4) | |
| 第11回 | * 体を使ったレクリエーション② 体操あそび (ラジオ体操、輪ぐり、なべなべ、リズム体操) | (3),(4) | |
| 第12回 | * 体を使ったレクリエーション③ ジャンケンあそび、鬼あそび (チームで鬼あそびを考察する) | (3),(4) | |
| 第13回 | ※ 2 回目テスト (相互指導①) 鬼あそびをチームで指導する | (3),(4) | |
| 第14回 | ※ 2 回目テスト (相互指導②) 鬼あそびをチームで指導する | (3),(4) | |
| 第15回 | ※ 2 回目テスト (相互指導③) 鬼あそびをチームで指導する | (3),(4) | |
| 定期試験 | 実技試験 | | |